

自己点検・自己評価と学校関係者評価 総括表(令和6年度)

上天草看護専門学校

カテゴリー		評価項目		評価	平均	平均	自己点検・自己評価総括	総合評価	学校関係者評価
Ⅰ 教育理念・教育目的		1－1	教育理念・教育目的は、自養成所の特徴を示している。	2.75	2.5	2.51	教育理念は校訓を受けて設定されており、その校訓は教職員及び学生への周知のためにエントランスと各教室に掲示している。教育目的は、教育理念を受けて設定されており、看護教育についての考え方、目指す卒業生像をイメージできるようになっている。また学生便覧に示し、入学時オリエンテーションで説明することで、学生自身が教育理念・教育目的を意識づけられていると考える。今後、より継続した学修の指針になるように、年度初めや前期・後期の振り返りの際、また行事などのイベント時にも再確認できるように働きかけていくとともに、教員間でも周知に直し振り返る機会を設け、引き続き、教育の質保証に対して客観的な評価を続けていく。	2.5	教育理念は校訓を基に設定されている。またその校訓はエントランスや教室に掲示されており常に確認ができる環境となっている。教育理念・教育目的については、実際に学生の指針となるように具体的に示されている。さまざまな取り組みがなされており、学生の意識づけになっている。
		1－2	教育理念・教育目的は法との整合性がある。	2.75					
		2－1	教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。	2.58					
		2－2	教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。	2.50					
		3－1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。	2.58					
		3－2	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。	2.25					
		3－3	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。	2.08					
		4－1	教育理念・教育目的は、看護、看護教育、学生観にについて明示している。	2.42					
		4－2	看護、看護教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。	2.33					
		5－1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。	2.67					
		5－2	卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	2.67					
Ⅱ 教育目標		1	教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	2.58	2.5	2.50	教育目標は教育理念・教育目的との一貫性を考慮し、6つの目標から成り立っている。その中で人間理解のための豊かな人間性と専門職業人としての能力の育成、継続教育との関連性を具体的に提示している。また、教育目標と関連させて、学年別到達目標を定めている。今後も各学年の到達目標を意識し取り組めるように働きかけていく。ディプロマポリシーに明示している人物像と具体的なカリキュラムポリシーにも一貫性があり、卒業後に貢献できる看護師像が明確になっている。	2.5	教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。また教育目標と関連させて学年別到達目標を定めてある。教育目標、学年別到達目標について、到達度アンケートが実施されており、各学年の学生が目標を意識できている。
		2－1	教育目標は、設定した教育内容を網羅している。	2.50					
		2－2	教育目標は、最高位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。	2.50					
		3－1	教育目標は、教育内容と到達レベルが対応している。	2.42					
		3－2	教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。	2.42					
		4	看護実践者としての能力を育成側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。	2.50					
		5	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	2.58					
Ⅲ 教育課程経営	教育課程経営者の活動	1－1	教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。	2.17	2.3	2.38	教育理念に基づいた教育課程の編成・実施方針等の策定がなされており、科目と単元の構成、単位履修の方法は、学生便覧で示し学生の単位修得の支援となっている。今年度は社会人基礎力を根幹に据えた教育をしている。また、教員の自己研鑽のため研修は各個人で研修会・学会を希望し参加しているが、教員個々の学習による教育方法の工夫に終わっている傾向が見られる。その中で、授業研究会として、老年看護学の模擬授業を企画し実施した。教員が学生体験をすることで学ぶ側の視点を見出し、よりよい教授法を考えることで、教育に関するモチベーションの維持、向上の機会となった。 R6年10月に実施された看護師養成校指導調査結果を踏まえて、主体的な自習時間の有効活用ができるよう、次年度へ向けカリキュラム再編を行った。 実習指導については、学生アンケートより特に実習指導体制において十分でないことが伺えた。アンケートではどのような内容について指導の統一が図れなかったのか具体的に把握ができなかったため、次年度の課題とし、実習の際に戸惑いを感じた際には早めに発信してもらうよう学生へ伝えていく。	2.4	社会人基礎力を根幹に据えた教育がなされている。また教員相互が成長できるような授業研究の取り組みがなされており、さらなる相互研鑽が期待される。 実習指導については、学生のアンケートより実習指導の統一が図れていなかったことがわかっている。今後早期に具体的な内容の把握を行い、対策の検討や調整を実施していくことが望ましい。また実習施設での学習充実度や問題点などを挙げてもらうと改善につながると考える。
		1－2	教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。	2.42					
	教育課程編成の考え方とその具体的な構成	1－1	看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を構成している。	2.67	2.6				
		1－2	学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を構成している。	2.67					
		1－3	学生の成長について明確な考え方と根拠を持って教育課程を構成している。	2.33					
	科目、単元構成	1－1	明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。	2.67	2.7				
		1－2	明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。	2.42					
		1－3	科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。	2.58					
		2－1	構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である。	2.83					
	教育計画	2－2	構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。	2.75	2.6				
		1－1	単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。	2.50					
		1－2	単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。	2.58					
		2	単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	2.58					
	教育課程評価の体系	1－1	単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	2.58	2.4				
		1－2	単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	2.58					
		2	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。	2.33					
		3－1	教育課程を評価する体系を整えている。	2.33					
		3－2	評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	2.25					
	教員の教育・研究活動の充実	1－1	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。	2.33	2.0				
		1－2	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。	1.92					
		2－1	教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。	1.92					
		2－2	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。	1.67					

	学生の看護実践体験の保障	1ー1	臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。	2.08					
		1ー2	臨地実習施設は学生の看護実践の学修を支援する体制を整えている	2.17					
		2ー1	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。	2.08					
		2ー2	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。	2.25					
		2ー3	臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。	2.25	2.3				
		3ー1	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。	2.58					
		3ー2	対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。	2.50					
		4ー1	臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。	2.33					
		4ー2	学生に対する安全教育、安全策を計画的に行っている。	2.58					
Ⅳ 教授・学習・評価過程	授業内容と教育課程との一貫性/看護学生としての妥当性/授業内容間の関連と発展	1	授業内容は教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	2.67			教育内容や科目目標・学習内容・評価については、シラバスに示している。授業形態では、より実践的な演習を強化している。学生からの授業評価(授業アンケート)を行い、授業の振り返りと内容の見直しを行っているが、全科目の実施には至ってないため、外部講師にも理解・協力を得てWEBでの授業アンケートも取り入れて、科目ごとの授業評価を実施していく必要がある。また今年度より導入された電子教科書を活用した教育方法の充実には至っていないため、今後の課題である。	2.4	授業形態は教員、外部講師共に工夫され、授業内容の重複や整合性を考慮し、科目の内容も整理されている。 なお、講義形態について改善を希望する意見があることから、教員・外部講師に対し、授業評価アンケートを取り入れ、評価・検討が必要であると考える。
		2ー1	授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。	2.75	2.6				
		2ー2	授業内容のまとまりの考え方は、科目目標と整合性をもっている。	2.58					
		3	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。	2.67					
		4	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。	2.17					
	授業の展開過程	1	授業形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容に応じて選択している。	2.67					
		2	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。	2.42	2.4				
		3	授業の展開過程の他に学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。	2.17					
		4	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。	2.25					
	目標達成の評価とフィードバック	1ー1	評価計画を立案し実施している。	2.00					
		1ー2	評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。	2.25					
		2ー1	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。	2.08	2.3				
		2ー2	教育目標の達成状況を多面的に把握している。	2.08					
		3ー1	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。	2.67					
		3ー2	単位認定のための評価には公平性が保たれている。	2.50					
	学習への動機づけと支援	1ー1	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。	2.33	2.3				
		1ー2	シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。	2.33					
Ⅴ 経営・管理過程	設置者の意思・指針	1ー1	養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。	2.58			学校運営会議、職員会議を適宜行い、教職員への伝達・共有・検討を重ねている。教職員も経営的な視点を持ち、財源や予算について把握できるように、また教職員の意思を反映できるような組織作りが必要である。 施設の課題として、6月から9月まで建物の高湿度(90%以上)や結露が生じ、教室や寮、教材への影響が大きく、学生の健康、安全面を第一優先に考え対応していく必要がある。 教員の確保については、長期研修(教員養成講習会・教務主任養成講習会)に参加する教員の代替として職員の採用を計画的に実施していく必要がある。 学生生活の支援については、カウンセリングや専門分野の支援、本人の申し出による合理的配慮への対応につなげることができた。また今年度はハラスメントにおける基本方針や相談窓口について整備、周知していく予定である。 経営の安定に対しては、入学者の人員確保が課題となっている。対策として指定校推薦の対象校と枠の増設を行ったが、出願者は昨年度を上回ったものの、入学者は減少となった。従来の高校訪問やオープンキャンパス、1日看護学生体験等を実施していくほか、今年度は離島へのPRや地域のマラソン大会等のボランティア活動の中で広報活動を実施した。特に令和6年度オープンキャンパス参加者のうち、出願資格がある者のうち、44%が入学へつながっていることから、さらに充実を図っていく必要がある。交通手段への対応(送迎)も整備していくことが必要である。また、学校見学や寮見学など個別対応を行っていく旨の発信を行い、学校案内の充実を図っていく。	2.2	数年前より入学者の人員確保が大きな課題となっている。その対策として、ホームページリニューアルやインスタグラム等のSNS開設や発信、オープンキャンパス、地域イベントをを通しての広報などあらゆる努力が行われており、成果が期待できる。 今後も継続して情報を発信し、学校や看護の魅力伝えていただきたい。 学校生活への支援についても丁寧な対応がされており、学生が安心して学べるような環境を整えてている。 今年度は看護師国家試験対策をさらに強化し、現役生合格率100%を達成されたことは快挙である。 今後も引き続き、管理者の考えや経営方針が教員同士で共有できるよう組織づくりに取り組んでいただきたい。
		1ー2	養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。	2.33	2.3				
		1ー3	養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。	2.33					
		1ー4	養成所の管理者は養成所の管理運営についての考え方を明示している。	2.33					
		1ー5	明示した管理者の考え方と、設置者の意思は一貫性がある。	2.25					
		1ー6	教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。	2.25					
	組織体制	1ー1	養成所の組織体制は教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。	2.17					
		1ー2	意思決定システムが明確になっている。	2.17	2.2				
		1ー3	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。	2.17					
		1ー4	意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。	2.33					
		2ー1	組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	2.17					
		2ー2	教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。	2.17					
	財政基盤	1ー1	財政基盤を確保することについての考え方が明確である。	2.00					
		1ー2	財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。	2.00	1.9				
		2ー1	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているのかを理解している。	2.08					
		2ー2	教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。	1.67					
	施設設備の整備	1ー1	学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。	2.17					
		1ー2	管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している。	2.33	2.2				
		2ー1	看護の専門教育に必要な施設設備を計画的に整備している。	2.42					
		2ー2	医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。	2.33					
		3ー1	養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとつての福利厚生施設の整備を検討している。	1.83					
		3ー2	学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。	2.00					
		1ー1	学生が入学後に学習を継続できる支援体制を多角的に整えている。	2.50					

	学生生活の支援	1－2	学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。	2.58	2.5	広報活動については、インスタグラムを開設し、継続的に情報発信を行った。1年間で80投稿、フォロワー300人、1か月閲覧数が1万回を超えている。また県外へのPRとして、福岡エリアでのJR駅構内トイレでのアドレットを採用した所、1名の入学者へつながった。今後も看護師養成校としてのアピールは、出願者数増加、入学者数の確保にもつながることから、効果的な広報の展開を図っていく。		
		1－3	支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。	2.33	2.4			
	養成所に関する情報提供	1－1	教育・学習活動に関する情報提供関係者（保護者等）に行っている。	2.50				
		1－2	関係者（保護者等）への情報提供は関係者から協力・支援をあることにつながっている。	2.33				
		2－1	看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている。	2.58				
		2－2	広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。	2.17				
	養成所の運営と将来構想	1－1	養成所は明確な明確な将来構想をもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	1.83				
		1－2	その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。	1.75				
	自己点検・自己評価体制	1－1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	2.58	2.3			
		1－2	実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	2.08				
		2－1	自己点検・自己評価体制を整え、運用している。	2.33				
		2－2	自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、事業実践にフィードバックするよう機能している。	2.25				
2－3		自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるよう機能している。	2.33					

Ⅵ 入学	1	教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	2.00	2.2	2.17	入学者の状況や入学者の入学後の推移等、統計的に把握している。入学選考については、募集要項に則り実施し、学校運営会議（合否判定会議）を経て合格者を決定しているが、教育効果の視点から分析・検証が不十分であるため、今後検討していく必要がある。今年度は新たに再入学制度を整備し、学び直しの機会を提供するとともに、医療人育成と輩出に貢献していく。	2.2	再入学制度を整備し、6名の学生に対し、学び直しの機会を提供することができた。
	2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。	2.33					

Ⅶ 卒業・就職・進学	1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	2.33	2.0	2.01	看護師国家試験合格率と実習評価、授業評価、看護技術到達度表から到達状況を把握している。また、卒業前に教育目標に関するアンケートを実施し、教育目標の評価・分析を行っている。卒業生の活動状況については十分把握できていないが、年に1度開催している病院情報交換会に卒業生が参加できており、近況把握や在学生との交流は行えている。国家資格については、国家試験合格率100%（現役生）を達成したが、次年度へ向けて既卒生や再入学生へのサポートは課題である。国試対策の共通認識を持つため、教員の国試対策係を各学年に設けた。また各分野別に現状と課題を分析したうえで、さらに講義や実習と繋げられるよう、必要時には講師や実習施設指導者との連携をはかり、学校全体での取り組みを強化し個別の学修支援へと繋げていく。なお、次年度は学校創立60周年大同窓会を計画している。	2.0	卒業生の就職先との情報交換ができる体制をさらに整備し、就職先での評価の把握・分析を行い、現任教育に活用していただきたい。
	2－1	卒業時の到達状況を分析している。	2.33					
	2－2	卒業生の就職・進学状況を分析している。	2.42					
	2－3	卒業生の到達状況、就職・進学状況についての分析結果は教育理念・教育目標との整合性がある。	2.00					
	3－1	卒業生の就職先での評価を把握し問題を明確にしている。	1.58					
	3－2	卒業生の就職先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。	1.92					
	4－1	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	1.75					
	4－2	卒業生の活動状況の分析結果を教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。	1.75					

Ⅷ 地域社会／国際交流	地域社会	1－1	社会との連教に向けて、地域のニーズを把握している。	1.92	2.3	2.01	実習施設からのボランティア要請には一定数の参加者があった。また、五橋祭、天草パールラインマラソンボランティアでは、地域住民との交流も図れた。今後も地域のイベント、実習病院や関係施設のイベント等へ参加し、地域社会への貢献を今後も図っていく。卒業生の中には海外で看護職に就いている人もいるため、今後も継続して支援していく。留学生の受け入れについては、入学についての問い合わせが2件あっているものの、受け入れ体制は現在整っていないため、今後検討していく必要がある。	2.0	地域のイベントには積極的に参加し、地域住民との交流が図れている。今後も継続することで地域社会へ貢献しながら社会性や人間性を育んでいけるようにしてほしい。今後、半導体技術分野の更なる進出により、海外からの学生が増えることが考えられるため、受け入れ体制を整えていただきたい。
		1－2	看護教育の活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。	2.42					
		2－1	養成所の教育活動について、地域社会へのニーズを把握する手段をもっている。	2.17					
		2－2	養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。	2.42					
		3－1	養成所が設置されている地域の特徴を把握している。	2.50					
		3－2	地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。	2.42					
	国際交流	1	国際的視野を広げるため授業科目を設定している。	2.08	1.6				
		2	国際的視野を広げるため自己学習に適した環境を整えている。	1.50					
		3	海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。	1.25					
		4	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	1.42					

Ⅸ 研究	1	教員の研究活動を保障（時間的、財政的、環境的）している。	1.67	1.8	1.75	教員自身も研究の必要性を感じているが研究活動に必要な時間的・財政的保障が十分ではなく、自身の研究活動に取り組むことがきていない状況である。新たな取り組みをしてきている部分もあるため、研究課題として取り上げ、成果の分析等を行っていくようにする。次年度へ向けて、社会人基礎力に関するもの、事前学習の手法と学習効果に関するものが研究課題の内容として挙げられている。また、教員全体が研究活動に意欲がもてるよう、時間的・財政的保障できるようにサポート体制を整えていく必要がある。	1.8	教員の研究発表が院内・院外で予定されている。また授業研究会として模擬授業の企画・実施がなされており、教育に対する意欲の向上がうかがえる。今後も教育者として、研究活動を通して、自身を客観的に捉え、成長できるように努めていただきたい。
	2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。	1.75					
	3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。	1.83					

		全項目平均値	2.26	2.22			
--	--	--------	------	------	--	--	--